男子１００ｋｇ超級

準決勝戦第１試合

６生田　秀和　　合せ技　　○　　３辻　玄太
（ＡＬＳＯＫ）　　（旭化成）

昨年の覇者生田は立技に前回大会に比し精彩を欠くも、立技のみならず寝技でも一日の長を見せる。ここまで寝技中心の勝利を重ねて準決勝戦に勝ち上がり、旭化成の巨漢辻と対戦。辻も接戦を勝ち抜いての準決勝戦初進出。

生田右組み、辻左組みのケンカ組手の対戦。生田は得意の内股、あるいは内股をフェイントに体落、小外掛で攻める。対する辻は内股で攻めるが共に効果なく時間が経過。組手は辻が引手を生田の左袖を制し、生田は辻の右襟を握る攻防。

こうして迎えた３分４８秒、辻の内股に生田が返し技の小外掛で思い切って体を捨てるが、惜しくも空振りとなって背中から倒れて技あり。辻はそのまま横四方固で固めて４分８秒合せ技一本。辻、堂々決勝戦進出を果たす。

準決勝戦第２試合

５大鋸　新　　大外刈　　○　　４石井　竜太
（旭化成）　　（日本中央競馬会）

大鋸は順調に勝ち上がり、５回戦の片渕（日本中央競馬会）戦を延長戦旗判定で降して準決勝戦進出。対する石井は足技が冴え、須藤（ＡＬＳＯＫ）との４回戦旗判定僅差での辛勝以外はオール一本勝で決勝戦に駒を進める。

巨漢同士の準決勝戦。両者、右組み。上背で勝る石井は背中を取り、強く引き付ける。開始２３秒、石井の力強い大外刈に、大鋸はこらえきれず背中から落ち、一本。

決勝戦

３辻　玄太　　大外刈　　○　　４石井　竜太
（旭化成）　　（日本中央競馬会）

長身の両者、左右のケンカ組手ながら互いにがっぷり組み合う。１分２７秒、石井が左にフェイントを掛け、右小外掛に変化し辻を横倒しにして有効を奪い先制する。それから程なく、辻が左手で石井の後帯の上部を掴み、強引に左大

腰を仕掛けようとするところを、石井は委細構わず右大外刈を浴びせ場外へ刈り落として一本。１分５８秒。石井が初優勝を果たす。